

# こどもと健康

NO・147

2014・6・16

## アデノウイルス感染症、拡大中！

高熱の出る感染症の代表、インフルエンザの流行はゴールデンウィーク終了と共に終わりました。現在、高熱のでる感染症としてアデノウイルス感染症が増えてきました。アデノウイルスは夏のウイルスで咽頭結膜熱（所謂、プール熱）、扁桃炎、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎（所謂、はやり目）等の原因ウイルスです。大阪府の感染症サーベイランスでも6月2日からの第23週では咽頭結膜熱は第4位にランクしており、泉北ではかなり流行しています。アデノによる扁桃炎は39℃以上の高熱が出て5日続くことも珍しくはありません。結膜炎を伴うと、プール熱とも言われますが、プールで感染することは殆んどなく、多くはカゼと同じく飛沫感染です。学校保健安全法で出校停止となっており、発熱などの主要症状が治まった翌日から2日間休む必要があります。インフルエンザに対するタミフルのような薬がありませんので、対症療法で経過を見ます。ワクチンもありません。例年、夏になると流行して、ヘルパンギーナ、手足口病と共に3大夏カゼと小児科医は言っています。うがい、手洗いを心がけましょう。

## アデノウイルス感染症について 「プール熱」と「はやり目」

アデノウイルスは50種類程度があって、咽頭結膜熱（所謂、プール熱）、急性扁桃炎、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎（所謂、はやり目）の他、心筋炎や出血性膀胱炎等を引き起こす、夏に活躍するウイルスです。今流行している咽頭結膜熱は主にアデノ3型ウイルスの感染により、4～5日続く高熱の他、のどの痛み、鼻汁、リンパ腺の腫れ、目の充血等を伴い、時に肺炎等を合併します。目の充血は熱が治まっても持続し、もういいだろうと思ってプールで遊ばせた所、水を介して一緒に遊んだ子に感染してしまい、プール熱と言われるようになりました。しかし、多くはカゼと同じく、飛沫感染と考えられます。流行性角結膜炎は主にアデノ8型ウイルスの感染症で感染力が強い為、幼稚園や保育所で一旦発生すると流行はなかなか押さえられません。手洗いを徹底することとタオルの共有は避けるべきです。出血性膀胱炎はアデノ11型ウイルス等により、血尿、排尿痛、頻尿等があり、1～2週間持続します。咽頭結膜熱は学校保健安全法で出校停止となっており、主要症状が治まってから2日間休学する必要があります。幼稚園、保育所もこれに準じており、他のアデノウイルス感染症も同じように対処する必要があります。

アデノウイルスにはインフルエンザウイルスに対するタミフルのような薬はなく、対症療法しかありません。又、ワクチンもありませんので、集団生活をしている場合、流行期には予防に気をつけましょう。余談ですが、アメリカでは新兵に4型と7型のワクチン接種が行われています。

# コクサッキーウイルス感染症について 「手足口病」と「ヘルパンギーナ」

コクサッキーウイルス感染症のヘルパンギーナが例年の通り、流行が始まりました。ヘルパンギーナはコクサッキーウイルス6等の感染によって、急な高熱とノドの痛みで発症し、のどの奥の粘膜に痛みを伴う1～2mmの水疱と潰瘍が出来て、嚥下困難となり、食欲も落ちます。次第に潰瘍周辺に紅班が出来て4～5日で軽快します。稀に無菌性髄膜炎を合併することもあります。軽症で済むケースが殆んどです。例年、ヘルパンギーナと相前後して流行するのが手足口病です。手足口病はコクサッキーウイルスA16による感染が最多でA5やB2、その他、同じグループのエンテロウイルス71も原因となります。手足口病は名前の通り、手のひらや足の裏に発疹が、口腔粘膜、特に頬粘膜に水疱、潰瘍ができて、口の中を痛がりヨダレが出てきます。一般的には微熱のケースが多いのですが、高熱の場合はエンテロウイルス71を疑います。手足以外にも発疹は足の甲からお尻にかけて丘疹を伴うケースも良くあります。一般的には軽症ですが、エンテロウイルス71の場合は熱も高く、無菌性髄膜炎や脳炎を合併して重症化することがあります。一般的にヘルパンギーナの方が熱は高い傾向にありますが、いずれも発熱は1～3日で、水疱も1週間程度で軽快します。特別な治療法がありませんので、すっぱいものは避け、口当たりの良いものを与えましょう。熱もなく、食欲が回復すれば、集団生活は可能です。

## はしか・風疹（MR）ワクチン接種を！

風疹は子どもが罹っても軽症で済むケースが多いのですが、成人が罹患すると症状も強く、特に妊娠初期に感染すると白内障、難聴、心疾患などの先天性風疹症候群のベビーが高率に生まれます。一昨年秋から風疹の流行が始まり、昨年は全国で14,357名が罹患しました。堺市でも309例の風疹報告があり、一昨年の約7倍になりました。患者の増加に比例して先天性風疹症候群が急増、一昨年の4例から昨年は32例、今年も3月までに8例の報告がありました。幸い、今年になって22週までの5カ月間に207例と風疹の流行は収まりつつありますが、例年春から流行しますので、しばらくは油断できません。

一方、はしかは平成19年に高校生、大学生を中心に大流行して社会問題となりましたが、積極的なワクチン接種により、はしか患者は急激に減少し、昨年は全国で232例まで減少、2015年にはWHOに日本から「麻疹排除」の報告が期待されていきました。所が、今年になって報告が増加して第22週までに352例と一昨年の患者数を超え、このままでは平成21年レベルまで逆戻りしそうです。幸い、堺市では今の5年間はしかの報告はありません。はしかも風疹も2回のワクチン接種をしておればまず罹りません。定期接種対象児の1歳児と来年4月入学する年長組は早めに接種しましょう。尚、堺市では風疹の抗体（免疫）の有無を検査して、陰性の場合、ワクチン接種に公費補助が受けられます。堺市在住の20歳以上で（1）妊娠を希望する女性とその同居者と（2）妊婦の同居者を対象に風疹の抗体（免疫）の有無を保健センター（南保健センターは南区役所4階に移転しました）において無料で検査が出来ます。検査日は南保健センターでは毎月第3水曜日の午前9～11時、深井駅前の中保健センターでは第3月曜日の同じ時間です。抗体がない場合、風疹ワクチン又ははしか・風疹混合（MR）ワクチンを自己負担金1000円で接種できますが、MRワクチンをお勧めしています。ご希望の方は電話で予約をしてください。尚、この制度は今のところ、平成27年3月31日迄受けられます。